

【実施報告】2019.11.4 サクモ（佐久市子ども未来館）主催

サンゴのワークショップ

～サンゴ礁から、海の生態系、海の環境を知る

高橋麻美（科学コミュニケーター）



概要 & 使用教材

2019年11月4日に、サクモ（佐久市子ども未来館）の「海と自分を考える月間」イベントの一環として、サンゴのワークショップを開催しました。小学生を対象にサンゴの生態を紹介し、環境問題について自分なりの疑問や考えを持ってもらう1時間のワークショップです。LAB to CLASSの教材《サンゴ礁ジグソーパズル》と《海の生きもの椅子取りゲーム》をワークショップに取り入れることで、子どもたちは自然とサンゴ礁の世界に没入し、最後には生き物や環境問題に対する疑問や好奇心をそれぞれにもって帰ってくれました。

- テーマ：サンゴ礁の生き物、環境問題
- 対象：小学生 40名程度（各回20名程度）
- 会場：サクモ（佐久市子ども未来館）
- 特別協力：船の科学館「海の学びミュージアムサポート」
- 実施時間：1時間
- 使用教材：サンゴ礁ジグソーパズル／海の生きもの椅子取りゲーム

活動の様子

1. 写真で見るサンゴ礁の生きもの

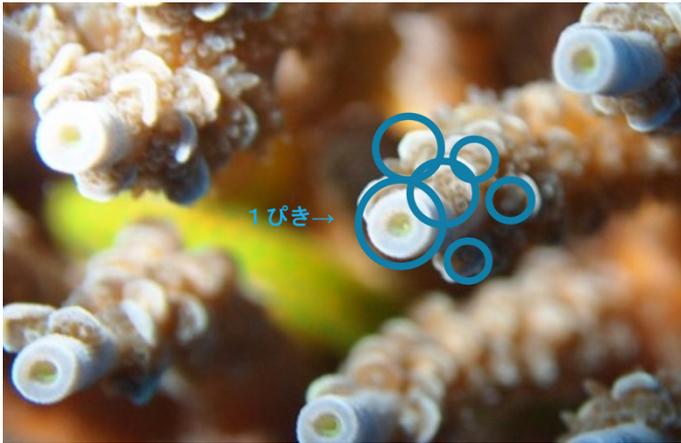


はじめにサンゴ礁の水中風景を写真で紹介しました。ウミガメやサメの写真には子どもたちから悲鳴や驚きの声があがり、そしてすべて講師自身が撮影したものだとなげると「怖くなかったのか」「何を食べているのか」などの疑問が飛び交いました。

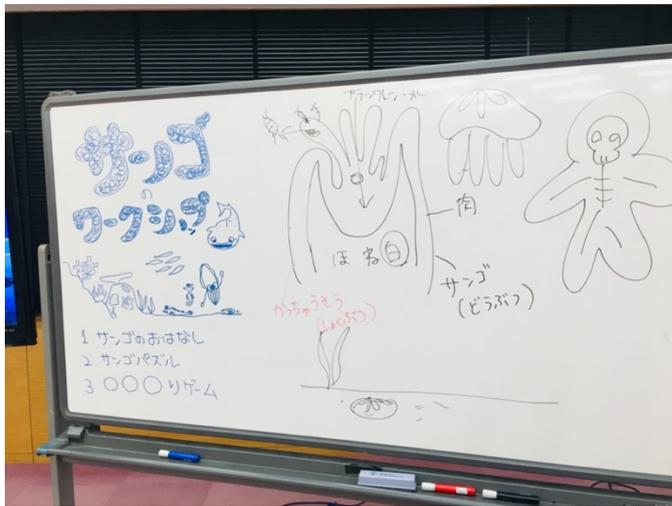
紹介した写真は、生き物単体を写したのものから、魚の群れや、小魚とそれを狙う大きな魚など、生き物と生き物の関係を写したものと。こうして切り替えていくことで、サンゴ礁の生態系に視点を広げていきました。



2. サンゴってどんな生き物？



水中写真でサンゴ礁の世界に浸り始めたところで、これまで紹介した写真にはずっとサンゴが映り込んでいたことに触れ、サンゴそのものの生態紹介に移りました。



サンゴの紹介は、写真とホワイトボードに書いたサンゴの内部構造の図を使って説明しました。

3. サンゴがいなくなったらどうなる？



ここからは体を動かして遊びます。まずは全員で《サンゴ礁ジグソーパズル》を作りました。

ジグソーパズル作成は子どもたちが自ら決めた制限時間3分でチャレンジ。初めて会った参加者同士でもパズルを完成させるという一つの目的に向かうことで、自然と役割分担や協力が生まれ、見事制限時間内に完成しました。

パズルが完成したところで、絵を囲んで好きな生き物や気になる生き物を聞くと、生き物だけでなく海に浮かぶゴミに注目する子も出てきました。



子どもたちの問いに少し解説をした後、「この絵からサンゴがいなくなったらどうなると思う？」という別の問いを投げかけて考えてもらいました。

すると、「魚をとっている人が困る」「隠れる場所がなくなる」など様々な発言が出てきました。ジグソーパズルにはダイバーの姿があるので、生き物が提供してくれるレクリエーションの恩恵についても話すことができました。

4. 実際に起こっている環境問題



パズルのまとめとして、実際にサンゴがいなくなるような環境問題が起こっていることを紹介しました。

地球温暖化だけでなく、開発や農業による赤土流出や、開発による埋め立て、観光客の増加による影響など、原因は一つではありません。「何かできることを考えるときには参考にしたい」と伝えたときの、子どもたちの真剣な表情が印象的でした。

5. 海の生き物椅子取りゲーム



最後は《海の生き物椅子取りゲーム》で海の生き物を総まとめ。

海の生き物が描かれたカードを配り、絵と一緒に書かれた生き物の特徴をヒントに椅子取りゲームを楽しみました。そのあと、《サンゴ礁ジグソーパズル》に戻って、それぞれの生き物の関係性を子供たちの持っていたカードを使って紹介しました(ゲームの内容は[こちら](#))。

実施後の感想

今回は海のない長野県での実施でしたが、実物の写真や LAB to CLASS の教材をうまく組み合わせることで、サンゴ礁の世界に子どもたちをいざなうことができました。

ワークショップの時間のほとんどは、海や生き物に関心を持つことに重点を置き、環境問題についても情報提供と問いを投げかけるところでとめています。環境問題の原因を悪とみなし反対することは簡単ですが、農業も土地開発も観光も、私たちにとって欠かせない活動でもあります。今回抱いた興味の種が、今後人生のどこかで“人間と生き物の共存を考える原動力”へと育つことを願っています。